

トーク & トーク

ビッグデータの拡がり と インフォプロ向け活用の実際

12月11日(金) 10:00~12:00 (A会場)

「ビッグデータ」という言葉が、メディアを賑わせるようになって久しい。本来の定義からみればペタバイトからエクサバイト級の非構造化データを効率よくどう処理するかがビッグデータを取り扱うこととされるが、各方面に浸透していくなかで、良くも悪くも、「今各自が扱う量より圧倒的に多量のデータ」をどう取り扱うか、という文脈をもって語られるようになっている。あるいは、データ量の大小を問わず、蓄積、処理、分析の新しい技術が常に必要であり、その解析を行う人材育成も求められる。本イベントでは、様々な観点からのビッグデータの利活用の実際を聞き、多量のデータをどう集め、どう解析し、どう生かすか、インフォプロの今後の活動に示唆を与えるものとしたい。

話題提供者

阿部 博史氏 (NHK)

1978年、愛知県生まれ。名古屋大学大学院 理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻修了。宇宙科学研究所(現 JAXA)やインドの TATA 基礎科学研究所と共同で、天文衛星の検出器の開発や赤外線気球望遠鏡の打ち上げを行う。2004年、NHK 入局。

小澤征爾、瀬戸内寂聴、村上龍などの文化人のドキュメンタリーやヒッグス粒子、遺伝子治療など科学・医療の最前線を伝えてきた。東日本大震災発生時は「ニュースウォッチ 9」のディレクターとして緊急報道を行ない、岩手県、宮城県、福島県のすべての自治体取材。「NHK スペシャル 震災ビッグデータ」や「クローズアップ現代」など東日本大震災や原発事故をテーマとする番組を制作している。2013年3月、9月、2014年3月に放送した内容をまとめた書籍「震災ビッグデータ」を2014年5月に発売。

鈴木 賢治氏 (株式会社プラスアルファ・コンサルティング)

株式会社プラスアルファ・コンサルティング 取締役副社長

テキストマイニングによる顧客の声活用を専門とし各業界で日本を代表する先進企業におけるビッグデータの全社活用プロジェクトを多数経験。

強みとする分析力を活かした新しい顧客の声活用の企画からクライアント企業内での活用の定着支援、啓もう活動まで定評がある。

ソーシャルメディア活用にも精通し、リスニングからアクティブサポートまで知見も広い。

著書に「顧客の声マネジメント」(オーム出版、共著)がある。

アンデーシュ・カールソン氏 (エルゼビア)

バイス・プレジデント アカデミック・リレーションズ 日本/アジア太平洋地区、エルゼビア

1987年 スウェーデン王立工科大学 物理専攻修士号取得 1992年 同大学 量子工学 博士号取得

NTT 物性科学基礎研究所、スタンフォード大学客員研究員、パリのポリテクニク工科大・中国の浙江大学で教鞭、スウェーデン・ストックホルムにある王立工科大学、スウェーデン大使館 科学技術参事官に就任を経て、現在に到る。2013年1月より大阪大学未来戦略機構、学長顧問
量子光学の教授就任。

2004年自身でコーディネートした IST-QuComm プロジェクトが評価され EU デカルト賞を受賞